

2007 年度前期 マクロ経済学 1

第 5 回 IS-LM モデル (2)

- 前回：IS-LM モデルの導出
 - IS 曲線：財市場が均衡

$$Y = C(Y - T) + I(Y, i) + G$$

(+) (+)(-)

- LM 曲線：金融市場が均衡

$$M/P = YL(i)$$

(-)

- 点 A:

- 今回
 - IS-LM モデルを用いた政策効果分析
 - 財政政策
 - 金融政策
 - 貨幣の定義

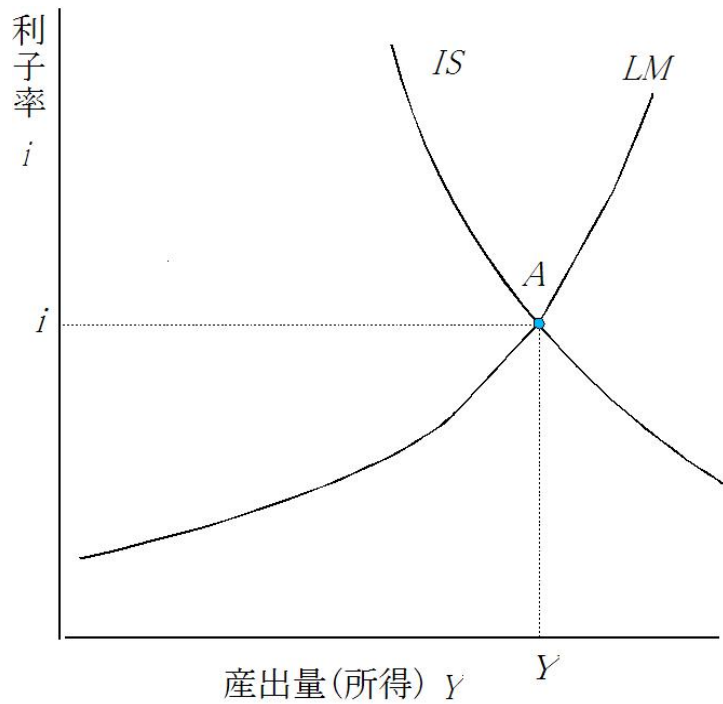
今回の講義

利
子
率
 i

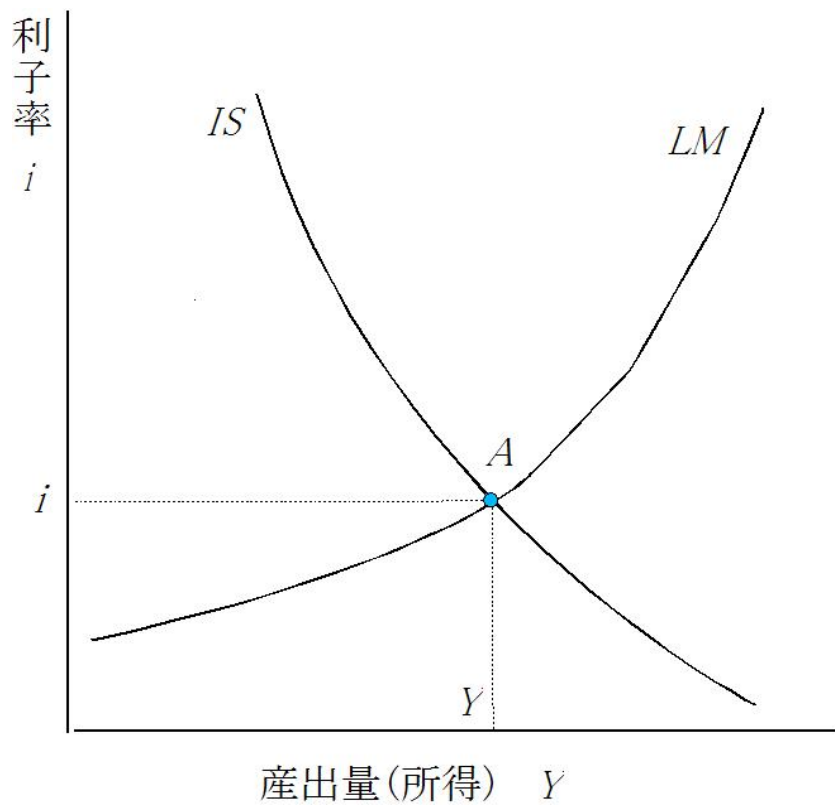
産出量(所得) Y

財政政策

- 拡張的財政政策：
- 緊縮的財政政策：
- 増税の例



財政政策 (2)・政府支出増加の例



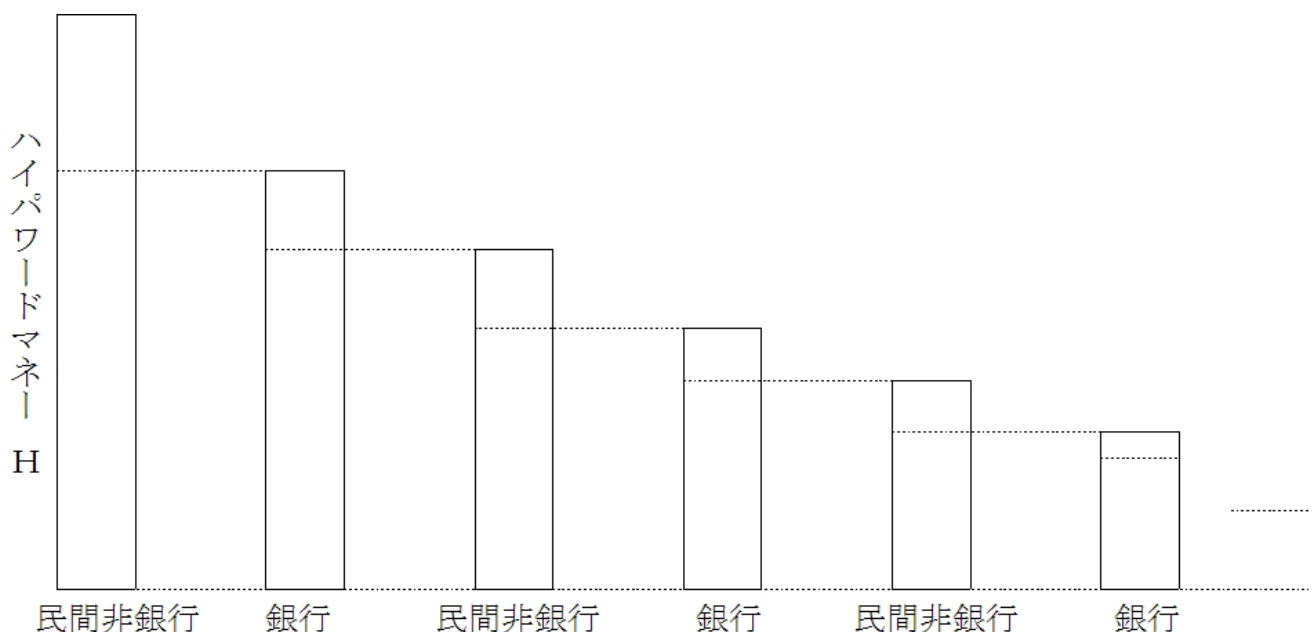
- クラウディングアウト

金融政策

- IS-LM モデルでの金融政策の手段は貨幣供給量 M
- 現実の金融政策で中央銀行が直接操作できるのはハイパワードマネー（マネタリーベース）。
- ハイパワードマネー（マネタリーベース）＝現金通貨＋銀行支払準備金
 - 現金通貨：
 - 銀行支払準備金：
- 貨幣供給量（マネーサプライ）＝現金通貨＋決済性預金（要求払い預金）
- 中央銀行によるハイパワードマネーの調整方法：
公開市場操作 (open market operation)
- ハイパワードマネーとマネーサプライはどのようにリンクしているのか？

銀行による貨幣創造 (1)

- 銀行による貨幣創造
 - 銀行が存在しない場合：ハイパワードマネー＝マネーサプライ＝現金通貨。
家計はこのほか政府の発行した債券を保有。
 - ここで銀行が経済に登場すると



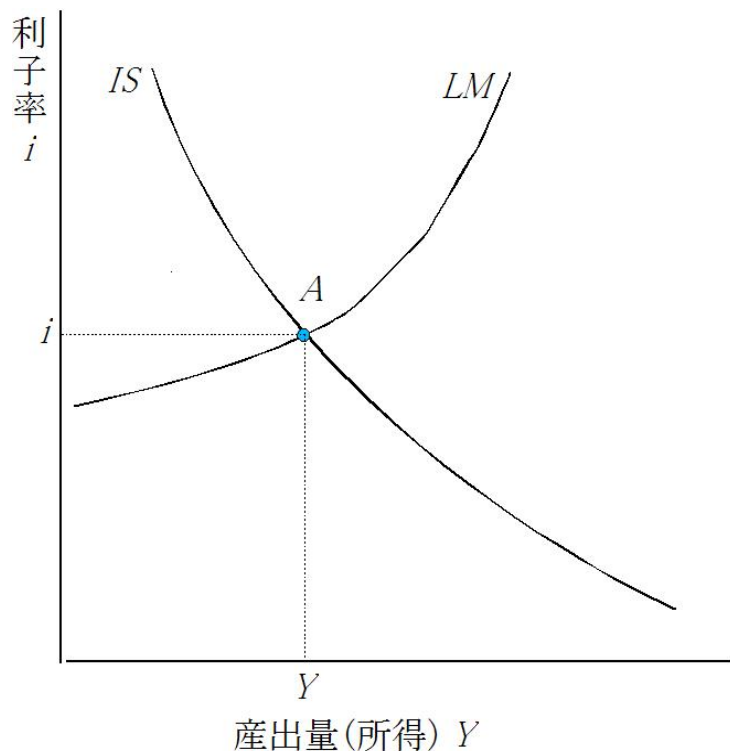
銀行による貨幣創造 (2)

- 数式で表すと
 - ハイパワードマネー $H=CU+R$, CU :現金通貨, R :銀行支払準備金
 - マネーサプライ $M=CU+D$, CU :現金通貨, D :決済性預金
 - 銀行の行動 $R=\theta D$, θ :支払準備率, $0<\theta<1$
 - 民間非銀行(家計)の資産選択 $CU=cD$, c :パラメター

- 先ほどの図による説明

- 中央銀行によるマネーサプライのもう一つの調整方法：支払準備率操作

金融政策 (2)

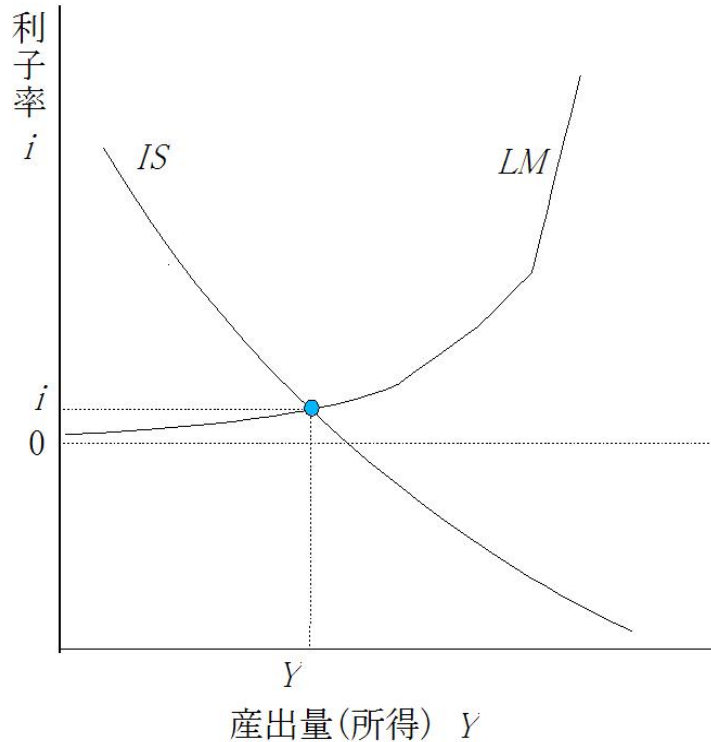


- 金融緩和政策：
- 金融引締政策：
- 金融緩和の例

金融政策 (3)

- LM 曲線のより正確な形状

(1) LM 曲線は利子率 0 の線よりも常に上に位置。



(2) (貨幣需要関数がある条件を満たすとき) 利子率が 0 に接近すると傾きが水平に近づく。

- IS 曲線が LM 曲線と LM 曲線の傾きが水平に小さい部分で交わっている状況。

- 流動性のわな

ダイナミックス

- 政策実施後、経済は直ちに新しい均衡に到達するわけではない。
← 財市場における乗数効果の波及には時間がかかる。
- それでは元の均衡と新しい均衡との間をどのように移動するのか？

- 乗数効果のメカニズムを乗数モデルで復習。
- 乗数モデル

– 財市場のみ。

– 投資は外生変数。

$$Z = c_0 + c_1(Y - T) + \bar{I} + G, \quad c_0 - c_1 T + \bar{I} + G: \text{独立支出}$$

(総需要関数)

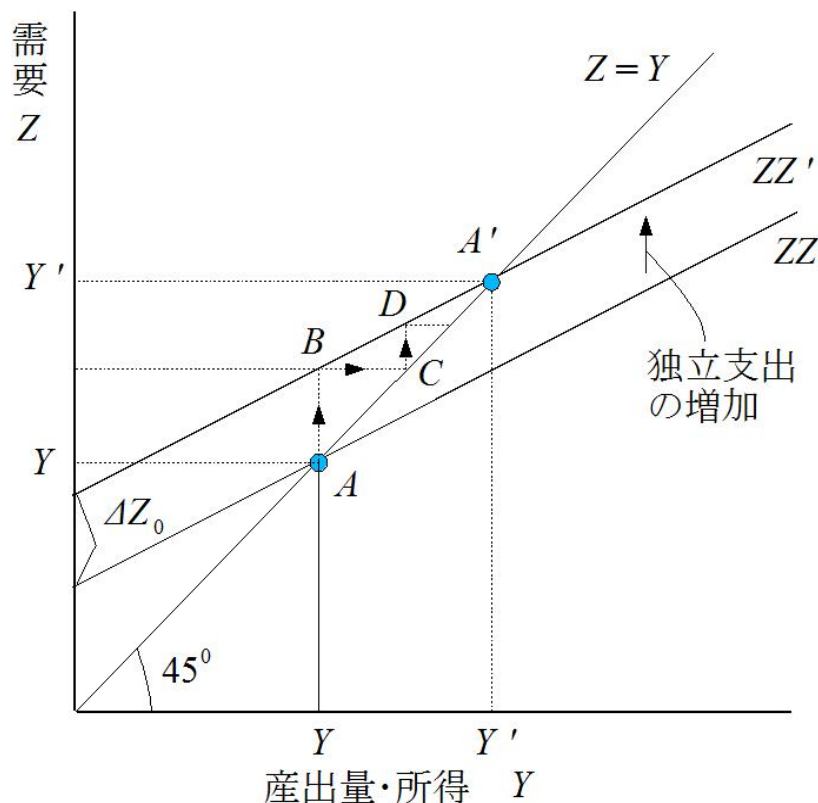
$$Z = Y \quad (\text{財市場の均衡条件})$$

- 均衡産出量

$$Y = \frac{1}{1 - c_1} (c_0 + \bar{I} + G - c_1 T) \quad * \text{乗数 } \frac{1}{1 - c_1} > 1$$

- 乗数効果：独立支出の変化による産出量の変化の大きさが乗数の影響を受けること。

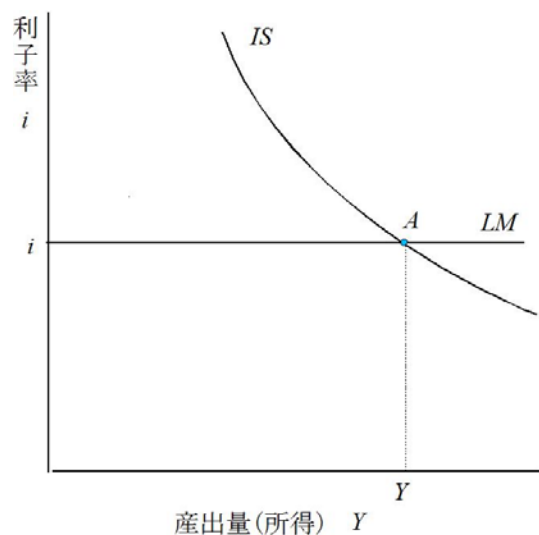
乗数効果波及のメカニズム



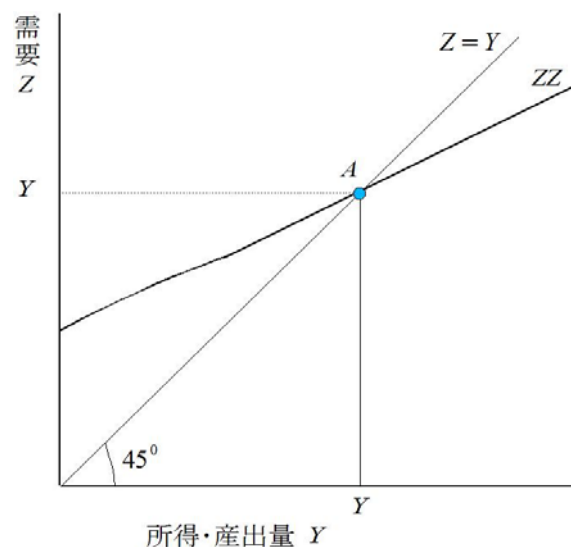
- 総需要関数

$$Z = c_0 + c_1(Y - T) + \bar{I} + G$$
- 経済が当初 A 点にあり独立支出 (たとえば G) が ΔZ_0 だけ増加した場合を考える。
- 図による説明

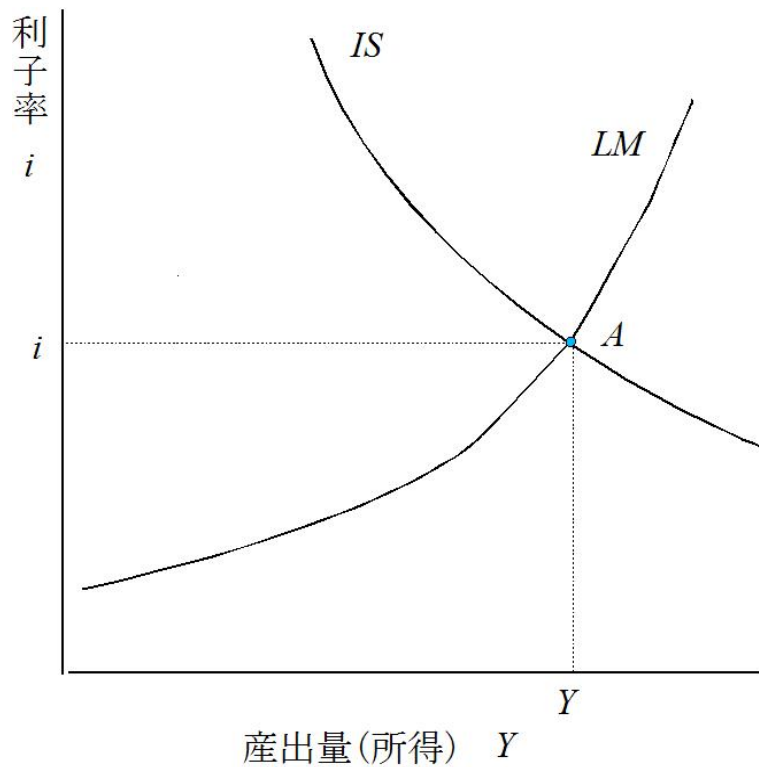
財政政策のダイナミクス



- 両市場の需給調整スピードに関する仮定
 - 財市場：乗数効果のため均衡への到達スピードが遅い。
 - 金融市場：瞬時に均衡。
- 増税の効果：LM 曲線が水平であるケース
 - 金融市場は常に均衡 →
 - 財市場は瞬時に均衡しないため
- 背後にある乗数効果



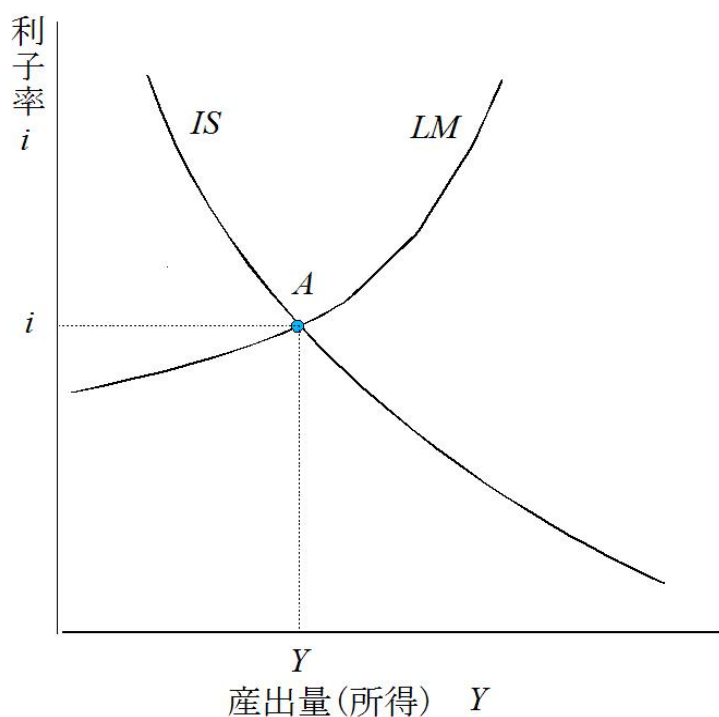
財政政策のダイナミックス (2)



- 増税の効果：通常のLM曲線のケース
- 金融市場は常に均衡
→ LM曲線上を移動
- 財市場における乗数効果の存在のため A' へ時間をかけて移動。

金融政策のダイナミックス

- 金融緩和の効果



- 金融市場は常に均衡
→
- 財市場における乗数効果の存在のため A' へ時間をかけて移動。